

埼玉県学力・学習状況調査（中学校）

# 復習シート 第三学年 国語

埼玉県学力・学習状況調査



組
番号
名前

## 【「言葉」を問う問題】

1 次の各問いに答えなさい。

(1) □の文の 線部と同じ活用形で使われているものはどれですか。次のア～エの中から一つ選び、記号を書きなさい。

昨日、公園で彼女を見た。

- ア きれいな花が咲いている。
- イ 鳥が一羽もない。
- ウ 勉強すれば成果がでるかもしれない。
- エ 手紙を書こう。

2 次の各問いに答えなさい。

(1) 次のア～エの 線部で適切でない敬語の使われ方をしているものを一つ選び、記号を書きなさい。また、適切な形に直して書きなさい。

- ア お客様がスープを召し上がる。      イ 来賓の方が学校へいらっしゃる。
- ウ 母が先生にお会いになる。            エ 朝礼で校長先生のお話を伺う。

記号

(2) 次の文の 線部を正しい敬語に書き直しなさい。

先生がおっしゃられる。

レベル10

レベル11

レベル10

# 復習シート 第二学年 国語

埼玉県学力・学習状況調査



コピペ

組
番号
名前

## 【「話すこと・聞くこと」を問う問題】

- 1 次の橋本さんのスピーチを読んで、問題を解きなさい。

近年、日本では観光客の人数が観光地の受け入れ可能人数を超えてしまう「オーバーツーリズム」が問題視されていることをみなさん、知っているでしょうか。 **ア**

観光地にとって、訪日外国人の観光客は歓迎するべきものですが、いくつかの問題があります。私は京都に住んでいるので、特に次のことに注目しました。 **イ**

それは、観光客の増加による混雑の問題です。 **ウ**京都駅や、有名な観光地に人が多く集まり、観光客はもとより、地域住民も快適に暮らすことができなくなります。このような問題を解決するために、京都市はいくつかの対策を行っています。

一つ目は、情報の発信による京都駅周辺の混雑緩和です。旅行者の「日常生活・出発地」、「車内・経路」、「目的地直前」という三つの段階で、交通機関の効率的なルートの利用を促す情報を発信することで、人流の分散化を図っているというものです。 SNSを活用したり、多言語で情報を伝えたりすることを意識しているようです。 **エ**

二つ目は、市バスの混雑緩和です。臨時バスの運行や増車を行うことや、車内の環境改善として、「手ぶら観光」を推進しています。「手ぶら観光」の推進では、臨時の手荷物預かり所を設置するなど工夫をしています。

この他にも、ごみのポイ捨て問題や、雇用の問題など、オーバーツーリズムの問題はたくさんあります。しかし、訪日外国人の観光客が増えることは日本の経済にとって良い面もありますし、日本の文化の良さが世界に広まるきっかけにもなります。私は、この問題を観光地だけの問題と思わず、地域・国が協力して考えていく必要があると考えます。私も京都市に住む一員として、一緒に考えていきたいと思っています。

（作成者自作による）

- (1) 橋本さんのスピーチにおける工夫に当てはまらないものをア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

レベル7

ア 具体的な事例を挙げ、調べたことをわかりやすく聞き手に伝えている。

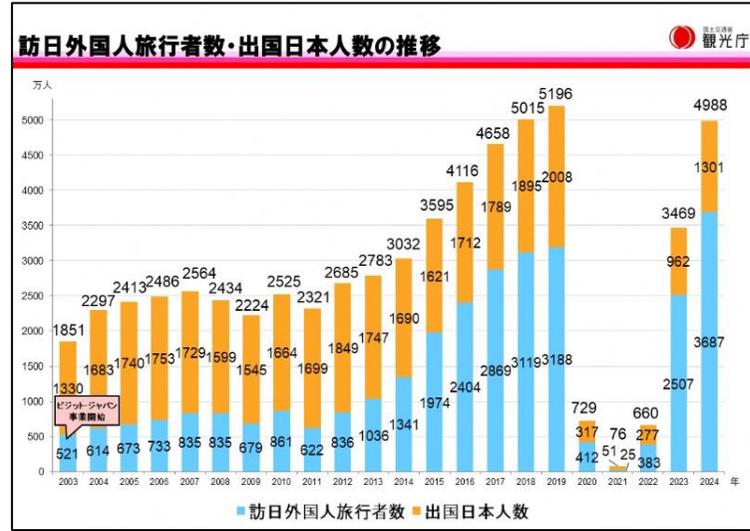
イ 聞き手に問いかける文を用い、興味をひいている。

ウ 現状を示すだけでなく、問題に対する自分の考えを書いている。

エ 最初と最後に自分の考えを述べ、強調している。

(2) 橋本さんはこのスピーチに合う資料を作成しました。次の資料はスピーチのどの部分で提示をするに最も良いでしょうか。スピーチ本文中の「ア」「エ」の記号で答えなさい。

日本を訪れる訪日外国人の人数の変化を表したグラフ



出典：日本政府観光局（JNTO）

2 橋本さんは、このスピーチをさらに良いものにしたと思います。田中さんに相談しました。次の文章はその相談の様子です。

橋本さん 「このスピーチをさらに良い文章にしたいと思っています。特に、京都市の取組が観光客や地域の方にとってどんな風に良いのかを伝えたいのだけれど、どうしたら良いと思いますか。」

田中さん 「京都市の対策の一つ目では、SNSや多言語を用いていることが書かれています。ここに、『このような取組は誰に対しても、瞬時にわかりやすくするために行われています。』のように効果を付け足すのはどうでしょうか。」

橋本さん 「ありがとうございます。それは確かにわかりやすいですね。では、二つ目の対策の段落の最後には（ ）と文を付け足すのはどうでしょうか。」

田中さん 「賛成です。とてもわかりやすく、橋本さんのスピーチの意図がよく伝わるとと思います。」

橋本さんのセリフの（ ）に入る言葉を考え、書きなさい。

レベル9

レベル6

# 復習シート 第三学年 国語



組	番号	名前

【「書くこと」を問う問題】

- 1 次の問題を解きなさい。

国語の授業で「読書の良さ」というテーマで意見文を書いています。次は、文書作成ソフトを使って書いた山田さんの【意見文の下書き】と友達が書いた【コメント・返信の一部】、コメントを受けて集めた【資料の一部】です。これらを読んで、問いに答えなさい。

【コメント・返信の一部】

上村  
 どのような良さがあるのかを具体例とともに書くのとよいのではないのでしょうか。

田中  
 私もそのように思います。また、読書の良さは人によって違うと思うので、自分自身の体験を踏まえて書くと、説得力が増すと思います。

【意見文の下書き】

最近、本を読む時間が減っている人が増えてきているようです。その理由として最も多いのは、スマートフォンや携帯電話などの情報機器の使用により本を読む時間が取られるからということでした。動画視聴やゲームばかりに時間を使うと、読書の時間がどんどん減ってしまいます。その結果、集中力が続かなくなったり、目が疲れてしまったりするなど、別の問題にもつながってしまう恐れが考えられます。

また、勉強や習い事が忙しくて本を読む時間がないという意見もあるようです。まとまった時間がとれなくても、休憩のわずかな時間でも読書はできます。

**読書には様々な良さがあります。**情報機器ではなく、本を手に取り、少しの時間でも本を読む習慣をもつことが大切だと考えています。

【資料の一部】

読書活動についての基本的な認識

(1) 読書の重要性

読書は、人類が獲得した文化である。読書により我々は、楽しく、知識が付き、もの考えることができる。また、あらゆる分野が用意され、簡単に享受でき、しかもそれほど費用が掛からないという特色を有する。読書習慣を身に付けることは、国語力を向上させるばかりでなく、一生の財産として生きる力ともなり、楽しみの基ともなるものである。

読書の習慣を幼いころから身に付けることが大切であるが、ここでいう読書とは、文学作品を読むことに限らず、自然科学・社会科学関係の本や新聞・雑誌を読んだり、何かを調べるために関係する本を読んだりすることなども含めたものである。

(文化審議会答申、「これからの時代に求められる国語力について」、平成16年2月3日)

(1) 山田さんは、上村さんと田中さんからの【コメントの一部】を踏まえて、で  
囲まれた「読書には様々な良さがあります。」のあとに、読書の良さとその具体例  
を書き加えることにしました。あなたならどのように書きますか。次の条件1と条  
件2に従って書きなさい。

ルール1

条件1 【資料の一部】の内容を踏まえ、「例えば」に続けて書くこと。

条件2 【資料の一部】の内容を踏まえた読書の良さの具体例として、自分の体験を入  
れて書くこと。

例えば、

埼玉県学力・学習状況調査(中学校)

# 復習シート 第三学年 国語



組	番号	名前

## 【「読むこと」を問う問題】

① 次の文章は、菊池寛の小説「蘭学事始」の一節である。江戸時代中期、杉田玄白と前野良沢は、オランダから渡来した解剖学書「ターヘルアナトミア」の翻訳を志す。しかし、オランダ語の辞書や解説書もなく、作業は困難を極める。以下は、これに続く場面である。この文章を読んで、あとの問に答えなさい。

彼らは、最初難解の言葉に接するごとに、丸に十文字を引いて印とした。それを轡十文字と呼んでいた。初め一年の間、どのページにもとのページにも、轡十文字が無数に散在した。  
 が、彼らの先駆者としての勇猛精神は、すべてを征服せずにはいなかった。一カ月六、七回の定日を怠りなく守った甲斐はあった。一年余を過ぎた頃には、訳語の数も増え、章句の脈も明らかに、書中の轡十文字は、残り少なくなき消されていた。

先駆者としての苦闘は、やがて先駆者のみが知る欣びで酬われていた。語句の末が明らかになるに従って、次第に蔗を食らうがごとく、そのうちに含まれた先人未知の真理の甘味が、彼らの心に浸みついていった。

彼らは、邦人未到の学問の沃土に彼らのみ足を踏み入れ得る欣びで、会集の期日ごとに、児女子の祭見に行く心地にて、夜の明くるのを待ちかねるほどになっていた。

玄白が、最初良沢に対して懐いていた軽い反感などは、もう跡形もなかった。彼は良沢の人となりとその篤学に、心から尊敬を払っていた。  
 が、翻訳の業が進んでいくのに従って、玄白は、だんだん自分の志と良沢のそれとが離れているのに気がついた。

玄白の志は、ターヘルアナトミアを一日も早く翻訳して、治療の実用に立て、世の医家の発明の種にすることだった。彼は、心のうちで思っていた。漢学が日本へ伝来して大成するまでには、数代、数十代の努力を要している。それと同じように、蘭学の大成も、数代を要するに違いないと思っていた。彼は、そうした一代に期しがたい大業を志すよりも、一事一書に志を集めて一代に成就することを期するに如かじと思っていた。五色の糸の乱れしは美しけれども、実用に供することは赤とか黄とかの一色に決し、ほかは皆切り捨つるに如かずと思っていた。

従って、彼は、ターヘルアナトミアの翻訳に余念もなかった。彼は一日会して解し得るところは、家に帰ってただちに翻訳した。

が、良沢の志は遠大だった。彼の志は蘭学の大成にあった。ターヘルアナトミアのごときは、ほとんど眼中になかった。彼は、オランダのごとくに\*5通達し、彼の国の書籍何にても読破したい大望を懐いていた。

最初、一、二年は、良沢と玄白との間に、なんら意見の\*6扞格もなかった。が、彼らの力が進むに従って、二人はいつも同じような口争いを続けていた。

「このところの文意はよく分かり申した。いざ先へ進もうではござらぬか」

玄白は、常に先を急いでいた。が、良沢は、\*7悠揚として落着いていた。

「いや、お待ちなされい。文意は通じても、語義が通じ申さぬ。およそ、語義が通じ申さないで、文意のみが通ずるは、\*8当推量と申すものでござる」

良沢は、頑として動かなかった。

四年の月日は過ぎた。

玄白は、ターヘルアナトミアの稿を更えること十二回に及んだ。が、篇中、未解の場所五カ所、難解の場所十七カ所があった。玄白は、ひたすらに\*9上梓を急いだ。が、良沢は、未解難解の場所を解するまではとて、上梓を\*10肯んじなかつた。

良沢と玄白とは、それについて幾度も論じ合った。が、二人はいくら論じ合っても、一致点を見出さなかつた。それは、二人の蘭学に対する態度の根本的な相違だった。

玄白は、とうとう自分一人の名前で、ターヘルアナトミアの翻訳たる解体新書を上梓する決心をした。が、さすがに彼は、良沢の名を無視するわけにはいかなかった。翻訳の筆記こそ、玄白の手によって行われたものの、翻訳の功は、半ば良沢に帰すべきものだったから。

玄白は、良沢を訪うて序文を懇願した。が、良沢は序文をも、次のようにいつて断った。

「いや、拙者かつて九州を\*11歴遊いたした折、\*12太宰府の天満宮へ参詣いたした節、かように申して\*13起誓したことがござる。良沢が蘭学に志を立て申したは、真の道理を究めようため、\*14名聞利益のためではござらぬゆえ、この学問の成就するよう\*15冥護を垂れたまえと、かように祈り申したのじゃ。この誓いにも背き申すゆえ、序文の儀は\*16平に許させられい！」

それをきいた玄白は、寂しかった。が、彼は自分の態度を卑下する気には、少しもなれなかつた。彼は、良沢の態度を尊敬した。が、それと同時に、彼は自分の態度を肯定せずにはおられなかつた。

\*1 沃土 肥えた土地 \*2 篤学 学問への志が深いこと \*3 医家 医師

\*4 如かじ 及ばない \*5 通達 よく知っていること

\*6 扞格 考えなどの食い違い \*7 悠揚 ゆつたりとして

\*8 当推量 根拠もなしに推測すること \*9 上梓 出版すること

\*10 肯んじない 承諾しないこと。

\*11 歴遊 いろいろなところを巡って遊ぶこと

\*12 太宰府の天満宮 福岡権威ある神社。学問の神をまつる。

\*13 起誓 誓いを立てること \*14 名聞 世間の評判

\*15 冥護 神仏の加護 \*16 平に なにとぞ

(1) 傍線「邦人未到の学問の沃土に彼らのみ足を踏み入れ得る」とは、どのような人ですか。本文中から三字で書き抜きなさい。

レ、ル9

(2) 傍線部「ターヘルアナトミアのごときは、ほとんど眼中になかった。」とありますが、その理由として最も適当なものを次のア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

レ、ル10

- ア 翻訳という作業は、本来の自分の志を達成する方法に適したものではないから。
- イ たった一冊の本の理解では、自分の本来の志を達成したことはないから。
- ウ 玄白と自分の志の違いに気づき、共同の翻訳作業を無意味に感じたから。
- エ 「ターヘルアナトミア」は、自分の志とは、無関係な分野のものだから。

(3) この文章の特徴を次のようにまとめました。空欄ア・イに当てはまる言葉を本文中から探し、それぞれ二字で書き抜きなさい。

レ、ル9

ターヘルアナトミアの翻訳を一代で完成させ、治療の ア に役立てるとい

う玄白の「志」と、数代・数十代かけてでも蘭学の イ をするという良沢の「志」

を対比させる構図で書かれている。

ア

イ